



1. 色とりどりの浴衣や法被を着て踊り流し / 2. 夏の夜空に大輪の花火が咲く / 3. 4. およそ2カ月間におよぶ練習の成果を發揮して、心を込めて歌う合唱団 / 5. 満員の観客を前に壮大な音楽劇を展開する

## 「オン・ザ・ロード、声高らかに」

8月12日、梁川町の広瀬川親水公園をメイン会場に「伊達のふる里夏まつり」が開催され、恒例の「やながわ踊り流し」や約5,000発の打ち上げ花火が夏の夜を彩りました。また、今回は新しいオラトリオ「オン・ザ・ロード」が初披露されました。会場には大勢の観客が訪れ、立ち見が出るほどの盛況ぶり。作曲を担当した洗足学園音楽大学教授の伊藤康英さんが指揮を執り、詩にあたる台本を手掛けた詩人の和合亮一さんが、魂を込めて詩を朗読。合唱、吹奏楽、和太鼓によって「伊達の歴史と未来」を表現しました。30分以上にわたって繰り広げられた音楽劇は観客を魅了し、割れんばかりの拍手が響き渡りました。

### 市長日誌「新しいオラトリオ」

オラトリオとは「音楽劇」と訳され、一般にはあまり馴染みの無いジャンルですが、当市では例年夏に、梁川の広瀬川親水公園に設置された野外舞台でオラトリオ「水のほほえみ」が演奏されてきました。

これは、昭和61年に発生した未曾有の大洪水、いわゆる「8・5水害」によって当時の梁川町は壊滅的な被害を受けましたが、行政と町民の努力によって新しい町並みを作り上げ、復活したことをオラトリオにしたもので、町民有志によって作られ、梁川交響吹奏楽団と梁川町内の合唱団によって今日まで演奏されてきたのです。

普段穏やかな恵みの川が風雨によって流れを一変、水は堤防を越え町中を襲う大洪水となる自然の恐ろしさと優しさを感じています。

伊達市発足10周年を迎えた昨年、記念事業として新しいオラトリオを作ることになりました。伊達市に縁のあるお二人、詩人の和合亮一さんに台本と作詞を、洗足学園音楽大学教授の伊藤康英さんに作曲をお願いし、完成したのが「オン・ザ・ロード」です。

「オン・ザ・ロード」とは、「私たちが歩んでいく道は市民皆で共に歩む道である。その道は養蚕が盛んだった頃、蚕糸が世界に広がっていった道であり、ふるさとの歴史である。その道は黒い騎馬武者（伊達政宗）によって守られていて、世界へ、宇宙へ、未来へと続く道である。市民こそつてはるか伊達路へ向かって行く」との意であると受け止めています。

演奏時間が30分以上にもなる上、素人には難しい曲でもあり、一時、初演は来年という話もあったのですが、伊藤さんをはじめ、演奏者の熱い想いから集中して練習が行われ、予定通り「伊達のふる里夏まつり」に初演を果たすことができました。和合さんの朗読、子ども達の歌声、太鼓のうちばやし、さらには市全体からの参加を得た大合唱団などによる素晴らしい演奏でした。私も合唱団の一員として参加し、最後のパートで市歌を歌った時、こんな素晴らしいオラトリオが市民によって演奏できたことに強い感動をおぼえました。

伊達市は「果物と歴史のまち」のみならず、文化の薫り高い「音楽のまち」としても取り組んでいくべきと改めて思いました。

